

タイトル	The Library				
著者（文・絵）	Sarah Stewart（文）・David Small（絵）				
出版年	1995	出版社	Square Fish		
翻訳版	『エリザベスは本の虫』 福本友美子訳、アスラン書房、 2003 年				
総語数	440 語	ページ数	40 ページ	YL レベル	2.0
あらすじ					
エリザベスは本の虫です。他の子たちが好きな人形遊びやスケートには目もくれず、いつでもどこでも本と一緒に。他の子たちがデートに夢中な年頃になっても、本しか興味がありません。何をする時も、読書、読書、読書。そのうち、家は本でいっぱい、もう増やすことはできません。ある日のこと、エリザベスは裁判所に行き、寄付を申し出ました。そして...					
紹介					
絵本作家 Sarah Stewart はテキサス生まれ、イラストレーターの David Small はデトロイト生まれのアメリカ人です。ふたりは夫婦で、妻 Sarah Stewart の本は全て、夫 David Small が絵を担当しています。Small はコールデコット賞、その他の賞を受賞しています。 巻頭に、以下が書かれた図書カードの絵が載っており、Mary Elizabeth Brown に捧げられています。本作の主人公は実在人物だったようです。					
To the memory of the real <u>Mary Elizabeth Brown</u> Librarian, Reader, Friend 1920 – 1991					
世の中に本好き、読書好きの人は沢山いますが、主人公エリザベスの常軌を逸した（？）本への情熱は、現代風に言えば「オタク中のオタク」でしょうか。一見、風変わりに見えますが、ずっとひとつのことに熱中できるほど好きなことがあり、さらには人のためになることを成し遂げたエリザベスを羨ましくも思います（何をしたかは、読んで見つけてください）。 本書では、愛すべきオタクのエリザベスがユーモアと愛情いっぱいに描かれています。この物語を読んだら、あなたも身の回りにいるユニークな子や人をもっと愛おしく思う					

ようになるでしょう。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【授業活用例】

Lesson 1

- ① library をテーマにワールドカフェ形式で自由に意見交換を行います（本 HP、アクティビティー欄「ワールドカフェ」参照）。
- ② 本書を読み聞かせする。
- ③ この物語について自由に意見交換する。

Lesson 2

- ① 本文から英語のリズムを体感できる箇所をいくつか選び、教員のあとについて音読する。
 （例）Elizabeth Brown
 Entered the world
 Dropping straight down from the sky.（現在分詞）

 Elizabeth Brown
 Entered the world
 Skinny, nearsighted, and shy.（形容詞）
- ② ユニークかつ才能溢れる人（有名人、歴史上の人物、身の回りの人）を 1 人選び、上記の三行スタイルで描写する。ある程度の英語力があるクラスでは数連書く。韻を踏むとリズム感が生まれることも言及する。
- ③ グループで各自が書いたものを音読して紹介する。その後、講評しあう。

Extra Activities

※ 西洋社会と日本社会の寄付文化について調べ、意見交換する、「あなたが寄付をするなら、何をどこに寄付しますか」などを、授業に盛り込んでもよいでしょう。

関連作品・参考 URL

Sarah Stewart と David Small のプロフィールは、以下のサイトで紹介されています。
<http://www.davidsmallbooks.com/about-avenue>